HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	「国際開発キックオフ・シンポジウム ： 伝統・開発・グローバル化：国際開発の課題と展望」の開催に寄せて
著者	西村，宣彦
引用	開発論集(106)：305-305
発行日	2020-09-30

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

「国際開発キックオフ・シンポジウム―伝統・開発・グローバル化：国際開発の課題と展望」の開催に寄せて

西村　宣彦（北海学園大学開発研究所所長，北海学園大学経済学部教授）

2019 年 10 月 4 日，開発研究所主催で「国際開発キックオフ・シンポジウム―伝統・開発・グローバル化：国際開発の課題と展望」を，本学国際会議場で開催した。北海道の発展や開発政策のあり方を主たる研究課題としてきた当研究所が，本シンポを開催した狙いは 2 つある。

一つはグローバル化，即ち国境を越えたヒト・モノ・カネ・情報の交流が，ここ北海道でも急速に進み，海外諸国・地域との相互作用や相互依存関係が深まっている中，北海道が直面する課題や可能性，開発政策のあり方について，地球的な視点で捉え返すことの重要性が増していること。もう一つはそうしたグローバル化時代において，国内外の開発研究・地域研究分野で蓄積された研究成果や知見を積極的に吸収し，研究交流を深めることが，当研究所の今後の発展に寄与すると考えられたこと。以上を踏まえて今後，国際開発研究に継続的に取り組むとの決意を込めて，「キックオフ」のシンポジウムを開催することとした。

プログラムは以下の通り。第 1 部の基調講演は，ミュンヘン大学名誉教授でキリスト教学を専門とするフリードリッヒ・ヴィルヘルム・グラーフ氏が，「宗教とグローバル化」と題して講演を行った。第 2 部のシンポジウムでは，以下の 3 氏が報告を行った。最初に東京大学名誉教授で学習院大学国際社会科学部教授の末廣昭氏が「経済開発と社会的公正 ―― タイの経験」，続いて，本学経済学部准教授の宮島良明氏が「コミュニティ開発とコミュニティ・ベースド・ツーリズム」，最後に同じく本学経済学部講師の牛久晴香氏が「農民生活世界から見る開発と国際市場―ガーナの「かごバッグ」産地を事例に」と題して報告を行い，その後フロアを交えて討議を行った。

なお本シンポジウムの内容の要旨は，『北海学園大学開発研究所・地域連携推進機構ニュースレター』第 2 号（2020 年 3 月発行）の巻頭特集として紹介したので，そちらを参照されたい。また第 1 部の基調講演については，『真理の多形性 ―― F・W・グラーフ博士の来日記念講演集』（フリードリヒ・ヴィルヘルム・グラーフ著，安酸敏眞監訳，北海学園大学出版会，2020 年 3 月発行）の第 2 章に所収されることになったため，本誌では第 2 部のシンポジウムの 3 つの報告をベースとした論文を掲載した。